



## 栗子川右俣左沢

1990年9月24日

Li. ...

採石所の許可を得て、構内の駐車場に車を置かせてもらう。旧13号国道を少し歩き、水道のタンクのある所から沢に入る。8:55遡行開始。

出だしから廊下である。滝は1~2mであるが、兩岸が狭まり、沢は暗く、釜が深く、いい雰囲気である。しかし、特に難場というほどのものはない。出だしの廊下を過ぎた後も、小滝がチョコチョコと出てくる。難しい小滝はなく、遡行にアクセントがついて退屈しない。

9:40二俣。本流である右沢には、和泉・脇屋パーティが入る。我々の今日の目標は左沢。小休止ののち遡行再開。左沢に入ると、しばらくの間は今まで同様小滝が断続する。途中5m3段の滝があり、ここは左岸を直登する。そのあとは小滝と小滝の間隔がひらき、ポツリポツリという感じとなった。

やがて沢は徐々に傾斜を増してくる。5mナメ滝を直登すると二俣。右沢の方が水量が多いが、下降する沢のことを考えて左沢にルートをとる。沢はますます傾斜をまし、やがてガレ状となって一部伏流となってしまふ。ここでおしまいなら、稜線までのやぶこぎがきついなあと思っていたら、今は見捨てられた踏跡にかかるコンクリート製の橋から先で、またはっきりとした流れが出てきた。

最後の小滝を越え、沢がすっかり細くなったのちも水流は途切れずに続く。しかしそれもついに消えた。水源は小さな湿地帯から湧き出る清水である。遡行終了11:15。そこはもう稜線直下で、稜線まではやぶこぎ5分程であった。

(記)

[タイム] 遡行開始(8:55)→右沢分岐(9:40)→橋(10:45)→源頭の湿原(11:15)→  
稜線(11:20)

### 栗子川左俣右沢 1990年9月24日 L

稜線上は見通しがきかず、木の上に登って現在地を確認してから、11:40下降  
開始。まだ十分に育ちきらない樹林帯を5分も下ると、沢  
の源頭に出た。

急傾斜であるが滝のかからない沢が続く。ぐんぐん下っ  
てゆくと、左岸に炭焼き釜跡があった。炭焼き釜があるの  
だから、踏跡でも残っているかと探したが、それらしいも  
のは見当らず、そのまま沢の下降を続ける。

やがて1~5mの小滝が5つ連続する地点に出る。ここ  
がこの沢の一つのハイライト(もう一つは最後に出現した  
15m滝)。最初の5mは、右岸を樹木につかまりながら下  
る。そのあとの4mおよび3mの滝はクライミングダウン  
となった。

このあとはポツリポツリと小滝が出てくるものの、概し  
て平凡な下りが続いた。やがて採石場で動いている機械の  
音が聞こえてくる。もうすぐ下降終了となるぞと考えてい  
たら、突然目の前が切れ落ちた。15mの滝。左岸の急傾斜  
の斜面をブッシュや樹木を利用しながら下る。最後の幸と  
もいうべき滝だった。あとは採石場から押し出されてきた  
石を踏みながら下り、左沢との合流点の直前で左岸の道路  
に上がる。下降終了13:30。 (記)

[タイム] 下降開始(11:40)→下降終了(13:30)

### 栗子川左俣左沢 1990年9月23日 L:

